

- ・松陰敬仰の気運醸成
- ・松陰精神の継承普及
- ・松陰教学の研究振興

○編集発行 財団法人松風会
〒753 山口市大手町2-18
山口県教育会館内 TEL 0839 (22)1218



会報

松門

第二回松陰研修塾の修了を祝して

—平成九年一月二十五日—



財団法人 松風会

理事長 松 永 祥 甫

年改まり厳寒の最中、又極めて多忙の処上野県教育長さんを始めご来賓の方々のご臨席を賜り茲に第二回松陰研修塾修了式を挙行致し得ますことは誠に

光栄且つ感謝に堪えません。先ず以て衷心よりご厚礼申し上げます。

さて、只今修了証書を手に致されました皆様は一般市民の方

が三名、大部分は小中高の先生方若しくは教育行政に携わっておられる実にご多忙な方々であります。その寸暇を割かれて平成六年六月松陰塾第二回生としてご入塾、爾来三ヶ年に亘り或いは九回の研修に、或いは自己研究を致され、本日目出度く修了証書を手になされました次第、心から敬意を表し且つお祝し申し上げます。更に又皆様の中には既に第一回生をご修了、引き続き第二回生として研修され、言わば大学院生の方も三名ありまして、この事は研修塾に深い

理解を示され同時に期待と魅力を持たれてのことであろうかと存じまして誠に心強く且つ感謝感激の至りに存じます。

皆様の三ヶ年或いは六ヶ年の研修の証ともいふべき研究経過報告を拝見致しました。報告書は総じて研修への動機、研究の経過及び今後の予定が述べられております。

夢と希望に輝く二十一世紀を指呼の間に望むとは申し乍ら、実は現在では明治維新、並びに大戦直後の国を挙げて危急存亡の秋に違わず、複雑急転の国際社会の最只中に在って誠に先き行き不透明な激動の秋に際会しておりまして、県民の方々が明治維新成功の原動力と称えられる吉田松陰先生に学ぶという発意発想は全く肯綮に中ると思われます。ましてや救国の大精神と生死をかけての行動が松下村塾の教育に根差すとなると現在教育者の方々が、松陰先生に学び研

究される発想は極めて意義深いものと存じます。講師の講義に臨まれ、又そのテーマに即して研究に勤しまれております。過去八回の研修が或いは教育会館で或いは萩青年の家で開催されておりますが、夫々松陰研究第一一人者の講師先生方による講義が行われ、研修生の皆様は又熱心に受講や研究対議を致されました。研究内容としては松陰先生とその家族、兵学修業、九州遊学、諸国遊学、下田踏海前後、野山獄幽室、松下村塾、殉難等先生の全生涯に亘っていますが、中には門下生に焦点を当てられております。何れにしても松陰

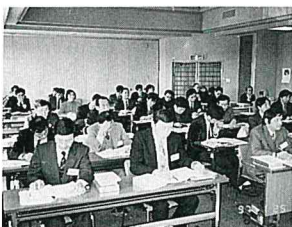
先生は何時如何なる部門を取り出しましてもすべて教育上最高の珠玉であります。又松陰研究上の媒体となるものは数多くの松陰に関する図書であります。真に先生に私淑するにはその遺文に接するのが最も有益でありまして、昨春刊行致しました

「脚注 吉田松陰撰集」を愛読されておられ、誠に嬉しく思っております。

今後の予定につきましては、継続研究や、日々の教育現場に松陰をどのように取り組むべきか、方法としては再度入塾を希

望の向もあり誠に心強く感じました。今や現在社会は冒頭で申しました如く、誠に大転換期に突入しておりまして、政治、経済、社会各般に亘って危機的要素が充満しております。改善は待たなしとも叫ばれ、危機克服の根本義は心の在り方―国家社会を思う心―松陰精神が国民の意識となることに帰着すると信じます。つまり教育が政治、経済、社会活動の基盤であり最重要事ということであり、山口県教育の基本方針に「夢と知恵を育む」教育を掲げられていられることも宜なるかなと存じます。

終りになりましたがご指導賜りました諸先生方に謹んでお礼を申し述べますと同時に皆様の一層のご健康と更なる御研鑽を祈念致しまして、誠に粗辞でありましたが、これを以て式辞と致します。



第2回松陰研修塾受講風景
(平成9年1月25日)



祝 辞

山口県教育委員会
教育長 上野 孝明

第二回「松陰研修塾」の修了式が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

まずは、第二回修了生の皆様、本日はおめでとうございます。貴重な時間を割いて、三ヶ年の長期間の研修に挑戦された、その熱意とご労苦に対し深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、現代は、まさに生涯学習時代の黎明期であり、県教育委員会では、教育重点目標の第一に生涯学習社会の構築を掲げ、県民一人ひとりが、社会の変化に対応して、主体的に生涯を通じて、いつでも、どこでも、だれでも、学ぶことができ、その学習の成果が適切に評価される生涯学習社会の実現に向けて鋭意取り組んでいるところであります。

吉田松陰先生は、「獄中であつては、獄中でできることをやるだけである。」と言っておられるように、どのような状況にあつても、置かれた環境の中で、生涯学び続ける心を持ち続けられたのであります。

また、門弟とともに、草取りをしながらか歴史について語り、米をつきながら本を読み、常に、にこやかに親しみやすく講義をしておられたと言われて

います。真に、生涯学習ボランティアの精神を實踐しておられたとも言えるのであります。

また、松陰先生は、家庭のあり方について、「家庭には親愛と信頼の絆が大切である。」と言っておられます。

地域、家庭の教育力が問われている現在こそ、松陰先生の言われる「親愛と信頼の絆」の重要性が、ますます高まってきております。県教委としても、これら先人の教えを大切にしながら、今後とも、個性豊かな活力ある人づくりに努めてまいりたいと思ひます。

どうか塾生の皆様におかれましても、この研修塾で学ばれたことについて実践とおして今後の活動に活かされ、心豊かな生涯学習の構築にご尽力くださいますようお願いいたします。

財団法人松風会におかれましては「松陰先生の遺徳とその精神の普及振興を図り、それを現代に生かす」との理念のもと、広く活動されておられますことに對し、心から敬意を表しますとともに、今後とも、松永理事長さんを始め皆様方のますますのご活躍、ご発展を期待いたし、併せて、御出席の皆様のご健勝を祈念いたしましたして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

山口県小・中・高等学校校長会代表
山口県中学校長会
副会長 田中 親明

この修了式に県中学校長会石川会長が出席を予定しておりましたが、所用がありまして、わたくし副会長をしております田中が代わりましてお祝いの言葉を申し上げます。

修了生の皆さんにおかれましては、三ヶ年の研修を無事終えられ本日でたく修了されますこと、心からお祝い申しあげます。

さて、身近なお話と思ひまして、本校のことについて少し触れさせていたいただきます。

一昨年にはなりますが、本校へ東京都心の中学校長先生が、研修旅行でおいでになりました。

校長室にご案内し学校経営等についてお話しした後、雑談をしておりましたら、私の後ろに置いてあります吉田松陰先生の座像を指して、わたしの学校にもしこのように特定の人物の座像を置きましたら学校経営はとてできませんといわれると、ほかの校長先生が異口同音に同じようなことを話されました。

本校には座像が二体あります。一体は玄関、もう一体は校長室に置いてあります。

校長室にはいろいろな職種の訪問者があります。誰一人として座像に対して非難する人はいません。このような言葉をお聞きしたのは初めてですが、松陰先生生誕の地、また、松陰に先生とお呼びしていることなど私どもにとりましてこのような教育風土、教育環境の中で中学校

教育ができますことを嬉しく思うと同時に誇りにさえ感じます。

次に、萩市の中学校長会では研修の一つとして、松陰数学講話集を作成しております。松陰生誕の地で勤務することができるとは、松陰先生について知らないでは学校運営はできないということから、先輩校長先生が始められまして平成八年度で第七集目になるかと思ひます。内容につきましては、松陰先生の一生を通じて、現在でも通じると思われるものを生徒に、教職員に、保護者に話せるような講話になっております。また、市内の小中管理職研修会では年一回程度、長期休業中に松陰先生に造詣の深い先生にお話を聴くことにしております。

身近にわたしたちの尊敬する松陰先生が存在していることを考え、その短い人生から何を教育実践に生かすことができるかが、わたしたちにも課せられた大きな課題であると思ひます。

本年度山口県学校教育指導上の努力点に書かれております「夢と知恵を育む」学校教育とは、伝統や風土の中に行き方を見いだし、各学校の固有の条件を生かす手作りの教育であるとあります。その基盤となるものは松陰教学であると信じています。

修了生の皆さんにお願いしたいことは、この研修塾で学ばれました松陰教学を自分の職場で仲間、また子供にお話いただきますことが防長教育の精神に触れることになり、夢と知恵を育む学校教育の具現化につながると信じます。

終わりに、皆さんの益々のご活躍を祈念いたしましたしてお祝いの言葉といたします。

(萩市立萩第一中学校長)



祝辞

第一回松陰研修塾修了生
代表 木島俊太郎

第二回松陰研修塾の塾生の皆様、先程、修了証を手に入れ、無事三年間の研修を終えられたことに對し、心よりお祝いを申し上げますとともに、三年間に亘る皆様方のたゆまぬご研鑽に敬意を表する次第であります。

私も、三年前、この場で修了証を手にしたときの感動を思い出しているところであります。何とか三年間の研修を持ちこたえることが出来たのは、松永塾長さんをはじめ、講師の先生方、藤永事務局長さんの温かいご指導とご激励のお陰であると感謝しております。

先生方から受けたご指導の中身は言うまでもないことですが、塾長さんと講師の先生方にお出合いし、人としてのいろいろな感化を受けたと言いうことも、なにもものにも代え難い宝物であるということは、皆様にとっても同じであろうと思います。

講師陣も錚々たるメンバーで、松陰の研究にご造詣の深い大家が、これほどそろわられて集中的にご指導いただける機会は何に例がないと思います。

松陰研修塾で学んだことは、私の生活や仕事の中で生きており、大いに役立っています。皆様にとっても、この塾での研修は、今後の人生の大きな柱になるものと確信しております。

今も、心に強く残っている言葉は『志』と『至誠』であります。

『志』は目標を持って自己を存在させること、自己実現を計るということであり、『至誠』は志を実現していくときの姿勢、

心のありようです。つまり、生き方、生きる姿勢であると理解しております。

研修の中で何度もお話に出て来たように、今言われている『新しい教育観』や『山口県らしい教育』の目指すものも、松陰先生のお教えの中に重なるものが多くあったのではないかと思います。松陰先生のお教えは、今に通じると言うことだけでなく、将来に亘って相通じる真理でもあります。

現在、山口県では『県勢振興の基本目標』の基本視点に『人づくり』を取り上げ、教育立県を目指しています。

県教育委員会もこれを受けて『山口県教育ビジョン』を策定中と伺っております。

地方分権時代を目の前にして、今こそ、防長の人づくり、国づくりを振り返り、自立した山口県の人づくり、県づくりに挑む時ではないでしょうか。

私たちの使命は、教育の原型とも言うべき松陰精神の高揚と、さらに、これからの山口県の人づくり（山口県の教育）に對して、細やかなからもお手伝いをしていくことだと思えます。

松陰先生についてさらに深く研究を究める人、教育現場での実践に松陰先生の教えを生かしていく人等、様々な迫り方があると思えますが、今後とも、自分なりの研究を持続させていくことが、研修塾の期待に報いることになるのではないのでしょうか。

私たちは、塾生の仲間が増えたことを大いに歓迎します。これからは、同じ同志として力を併せて、新しい山口県の人づくり（教育）に寄与すべく、がんばっていきたいと思えます。

最後に、皆様方のさらなる御活躍を祈念し、祝辞といたします。本日は、本当にためてどうございました。

(萩教育事務所長)



謝辞

第二回松陰研修塾修了生
代表 佐々木喜次

第二回松陰研修塾修了生を代表して、一言お礼を述べさせていただきます。

本日は山口県教育委員会教育長上野孝明様始め、山口県小・中・高校関係の代表の校長先生方、第一回の研修塾修了生の代表の方、塾長としてご指導いただいた松永理事長様、並びに指導者の先生方には、公私共にご多忙な中を私たちのために、ご列席下さいまして誠に有り難うございました。

更に、お祝いのお言葉や励ましのお言葉を賜りましたことに對しまして、心から厚くお礼申し上げます。

私には当初、研修期間は三ヶ年もあるのかと思えたのですが、今は「光陰矢のごとし」、「少年老い易く、学成り難し」という賢人の言葉を改めて実感しております。特に、私の場合は、不勉強の上に、平成七・八年度の夏の研修は、学校や地域の行事と同時にであったために、どっちつかずに終わってしまいました。

そんな時に、事務局長の藤永先生から「学校や地域も大事にしなさいよ」とやさしく声をかけていただいたことで、それに甘えてしまいました。

とはいえ、あの夏の暑い日に、萩青年の家で長時間にわたり、熱心にご指導下さった講師の先生方にも、また参加できなかった研修生のために、講義内容をまとめて送付してもらった研修仲間にも、御恩がえしをしながらと思っております。

ささやかですが、私なりに周りの人達へ現在二つの働きかけをはじめていきます。

一つは、毎月の定例職員会の冒頭に五分間ぐらい松陰先生の語録について紹介をしています。今月は「杉蔵住け」にしました。もう一つは、家庭と地域の団体や職場に

配布する《学校だより》の中にも、研修塾で学んだことや自分なりに考えたことを載せたりしています。先月は「人賢愚ありといえども、一二の才能無きはなし」でした。

私の勤めている佐々木並小學校は児童数六十名の小規模校ですが、特殊学級が精神薄弱・言語・難聴と三つあります。その中一人はよくいたずらもするのですが、来校者には明るく挨拶して、スリッパも出して上げます。

このようなエピソードも学校便りにのせたりして、いろいろと情報を地域に発信しています。そうしますと、今度はうれしい情報を受信できることもあります。

例えば、河村太市先生が、昨年、精神薄弱者福祉教育振興山口県大会で、講演された中に、「松陰先生の末の弟敏三郎が、聴覚・言語の障害があったので、九州の旅の際には、加藤清正の墓に参り、弟の平癒を願った」ということや、「近年、家族を敬愛する気持ち薄れていける。敬とはお互いに認め合うことで、一人ひとりのよきを大切にすることにある。」述べられたことなどに對して、「とても感動した」と大会に参加した職員や保護者から聞くことができました。

私たち研修生はこのような情報のネットワークづくりに努めて、指導者の先生方に撒いていただいた種を、山口県のあちこちで、芽がふくように力を注ぎたいと思っております。

その情報ネットワークづくりに役立つようにと三原先生から自作のビデオ《吉田松陰先生》を研修生全員に配っていただけそうです。これも大いに活用していきたいと思えます。

言葉足らずで、意を尽くせませんが、研修生を代表としてのお礼のことばにかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

(旭村立佐々木並小学校長)

祝

第二回松陰研修塾
修了者紹介

第二回松陰研修塾の歩み

平成六年度―平成八年度 三カ年在塾 年間三回研修

一 平成六年 六月十一日(土) 於 山口県教育会館
二 平成六年 八月十二日(金)～十三日(土) 於 萩青年の家
三 平成六年 八月十三日(土) 於 萩青年の家
四 講義 今、改めて松陰に学ぶもの (三輪稔夫先生)
五 講義 松陰と登波 (松田輝夫先生)
六 座談会 巡見内容の整理と今後への展望等

第 2 回松陰研修塾開塾式



開塾の辞 松永理事長

入塾記念写真



於 山口県教育会館 第二研修室

1 開塾式
2 講義 松陰先生の生涯 (石原啓司先生)

3 座談会 松陰研修塾に求めるもの (河村太市先生)

講義に耳を傾ける



於 山口県教育会館 第二研修室

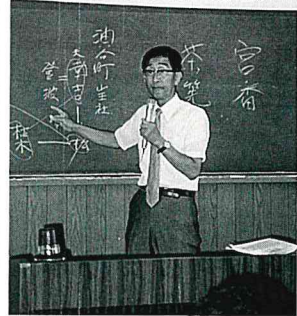
1 講義 志を育てる教育 (河村太市先生)
2 講義 兵学者としての松陰 (井町新熊先生)
3 巡見 萩市内・自主企画

巡見出発前の打合せ



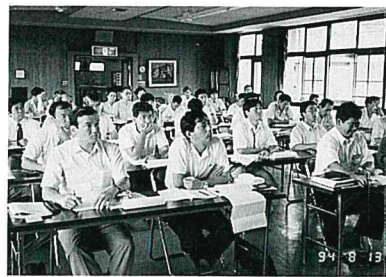
於 萩青年の家

平成3年6月開設



4 座談会 巡見内容の整理と今後への展望等
5 講義 松陰と登波 (松田輝夫先生)

暑さをふきとばして...

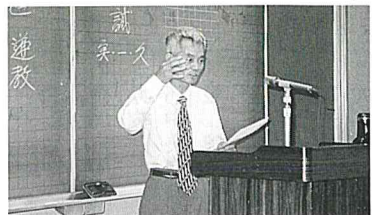

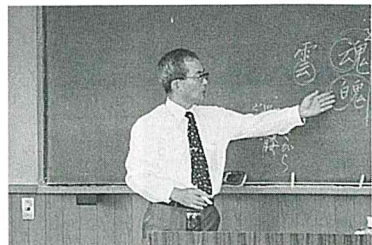


講義に聞き入る研修塾生一同

6 講話 教えることのできない 教えたいことがある



一私が松陰先生から学んだこと一 (和田征文先生)

<p>5 吟詠教室 (塾生 清水紀男) 五月二十五日</p>	<p>4 歌唱教室 (塾生 麻野和男) 吉田松陰</p>	<p>3 座談会(二年次三年次の研 修計画と打合せ)</p>	<p>2 講義 吉田松陰の敬慕した歴史 的人物(佐久間象山)  (河村太市先生)</p>	<p>1 講義 杉家の家風  (三輪稔夫先生)</p>	<p>7 講義 旅と松陰 (三輪稔夫先生) 平成七年 一月十四日(土) 於 山口県教育会館</p>
<p>1 講義 松陰の尊敬した歴史 的人物(山鹿素行) (河村太市先生)</p>	<p>5 平成七年 八月二十六日(土)~二十七日(日)</p>	<p>4 歌唱教室 吉田松陰 5 吟詠教室 5月25日</p>	<p>松陰研修塾  向って 左(塾生 麻野和男) 右(塾生 清水紀男) 座談会 講義内容にかかわ る質問・平素の問題事項等 (三輪・河村・折本先生)</p>	<p>3 講義 松下村塾の教育 (河村太市先生) 1 講義 深い学識と人間性に根 ざした獄囚の覚醒と憂 国の至情  (折本 章先生)</p>	<p>4 平成七年 六月十日(土) 於 山口県教育会館</p>
<p>9 吟詠教室 (塾生 清水紀男) 五月二十五日</p>	<p>8 歌唱教室 (塾生 麻野和男) 吉田松陰</p>	<p>7 巡見 萩市内 自主企画 (三輪稔夫先生)</p>	<p>6 講義 野山再獄・東送・殉難  (井町新熊先生)</p>	<p>4 座談会 明日への教育を語 り松陰に学ぶ 3 講義 吉田松陰の尊王思想に ついて  (石原啓司先生)</p>	<p>2 講義 松陰と女囚高須 久 (松田輝夫先生)</p>
<p>2 自主企画による発表と受指導 ―松陰先生に学ぶもの― (三輪・河村先生)</p>	<p>1 講義 防長の教育風土 ―その形成と伝統― (河村太市先生)</p>	<p>七 平成八年 五月二十五日(土) 於 山口県教育会館</p>	<p>発表  (塾生 福本紘子) (塾生 野口政吾)</p>	<p>2 自主企画による発表と受指導 (司会者 塾生 佐々木喜次)  (三輪稔夫・河村太市先生)</p>	<p>1 講義 吉田松陰研究と その歩み (三輪稔夫先生) 平成八年 一月十三日(土) 於 山口県教育会館</p>
<p>6 講義 幕末の国際情勢と 松陰の国際感覚 (石原啓司先生)</p>	<p>5 講義 村田清風と吉田松陰 (井町新熊先生)</p>	<p>4 自主企画による発表 (石原啓司先生)</p>	<p>3 講義 吉田榮太郎と三生 (松田輝夫先生)  (斎藤忠壽先生)</p>	<p>1 講義 季卓吾と松陰 ―その死生観について―  (荒巻大拙先生)</p>	<p>八 平成八年 八月二十四日(土)~二十五日(日) 於 萩青年の家</p>

7 塾生の発表に関する

総括指導

(石原啓司先生)

8 巡見 萩市内・三隅町

自主企画による

九 平成九年 一月二十五日(土)

於 山口県教育会館

1 修了式

開式のことば 10:00

国歌斉唱

研修報告(研究報告書)

修了証書授与

代表 藤邊健次

(6) 塾長式辞 松永理事長



(6) 来賓祝辞・紹介

山口県教育委員会

教育長 上野孝明殿

山口県小学校長会

会長 見好 豊殿

山口県中学校長会

副会長 田中親明殿

山口県高等学校長協会

理事長 中尾光宏殿

第一回松陰研修塾修了生

代表 木島俊太郎殿

(7) 修了生謝辞

代表 佐々木喜次

(8) 閉式のことば 10:40

2 修了記念撮影(第二研修室にて) 一来賓・主催者・修了生一



3 修了記念発表 10:50~16:20

修了生全員が三か年の研修

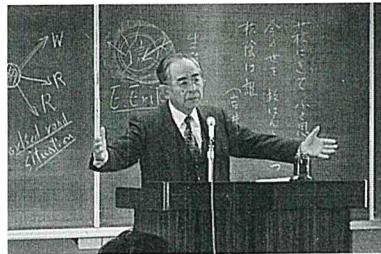
の成果を要約して発表。頗る

好評

修了記念講義を熱心に聴講する塾生

(資料) (1) 講師のレジメ

(2) 脚注・解説吉田松陰撰集



4 修了記念講義 14:40~16:15 教育の明日を拓くために (河村太市先生)

一 はじめに

天下の大患・大変な時代

二 松陰と家族(定位家族)

(1) 家庭の雰囲気・愛・敬・信

(2) 杉家の家法や家族に示す

書にみられる杉家の家風

三 松陰の教育観から

(1) 学校は地域風教の核たる事

(2) 教育の使命は「志を育て

る」事

(3) 「真骨頭」・「名字説」・「贈

序」・「福堂策」等に見られ

る個性教育

(4) 「諸生に示す」に見られ

る集団教育

(5) 「登波」・「東北遊日記」等

に見られる偏見・差別の払拭

四 松陰の教師観から

(1) 講孟余話(藤文公上第四

章)に見られる師道

(2) 師弟関係について

ア 藤文公上第四章

イ 「思父を語る」に見ら

れる教師の権威

ウ 松陰の師

・先師 山鹿素行

・我が師 佐久間象山

・「僕幼少より交友し、

其の師たり友たる者は

独り一山田宇右衛門あ

るのみ」(山県半蔵宛)

・「志を継ぐ人」「不朽の

人」に見られる弟子へ

の期待

(3) 教師の素養と人柄

吉田松陰撰集28某宛書簡

にみられる「時務の学」「俊

傑の学」に学ぶ

(4) 教師としての「よろこび」

の体験を大切に

ア 「回顧録」に見られる

松陰の姿

五 イ「スタンツ便り」にみら
れるベストロッチャーの姿等
終わりに一実践へ一

(財)松風会設立20周年記念

脚注
解説

吉田松陰撰集

一人間松陰の生と死一

松陰研究入門書として最適・好評・残部少

領布特価 6000円 (実費税込) 送料実費

体裁 A5版上製貼ケース入り 全一冊 約800ページ

松風会はあなたの松陰研究室

お気軽にどうぞ

〒753 山口市大手町二一八

山口県教育会館内

☎〇八三九一二二一八

第十一回松陰教学研究会

平成八年十二月三十日(土)
十二月一日(日)

於 公立学校共済組合湯田保養所(山泉荘)

一 開催趣旨

「学校教育指導上の努力点」(山口県教育委員会編)によれば、現代の学校教育に要請される重要な課題は、「社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成」にあることが明示され、この課題達成のための基本目標を二十一世紀に向かう「夢と知恵を育む」学校教育の推進と定められている。

これからの時代を拓く教育の推進には、多様な迫り方があろうが、なかでも偉大且つ不滅の人「吉田松陰」こそは本県の誇る歴史的逸材であり、この先覚に学ぶことは緊急不可欠と史料する。特に、先師松陰は時代を越えて常に課題解決の指針を示唆し、その人間観と教育についての研究と実践が熱望されている。そこで本県教育の更なる振興を資するために本研究会を開催する。

- 二 主題—松陰教学の現代的意義
- 三 主催・主管 財団法人松風会
- 〇 共催 山口県小学校長会 同 中学校長会 同 高等学校 財団法人山口県教育会
- 〇 後援 山口県教育委員会 山口県市教育委員会協議会 山口県町村教育委員会協議会
- 四 対象 小中高特開係管理職 教職出身教育行政関係者 所属長推薦の教員
- 五 参加者 三十三名

1 小学校関係 十六名

(内訳)

主催者 あいさつ



財団法人 松風会
理事長 松永祥甫

- 2 中学校関係 五名
 - 3 高等学校関係 七名
 - 4 特殊教育諸学校 三名
 - 5 教育行政関係 二名
- (男三十一名 女二名)
(敬称略)

1 開会式 九〇〇〜九二五

2 基調講話 12:45〜14:15
山口県の教育風土—その形成と伝統—



山口県立大学名誉教授
松風会理事 河村太市

1 基調講話 10:00〜12:00
吉田松陰の生涯



元山口県立山口博物館長
松風会理事 石原啓司

来賓祝辞



山口県教育庁指導課長 福田徳郎

山口県小・中学校長会高等学校長協会代表
山口県小学校長会会長 見好豊

開会式出席者



公立学校共済組合湯田保養所支関にて
(山泉荘)



シンポジスト④

周東町立中田小学校長 折本章



シンポジスト②

柳井市立柳井中学校長 梅本節治



真剣そのものの研修風景
中心資料①脚注・解説 吉田松陰撰集
②松陰先生に学ぶ



シンポジスト③

山口県立岩国高等学校長 吉村洋輔

3 シンポジウム 14:25〜17:10
「夢と知恵を育む」山口県教育と吉田松陰



登壇者 5名



コーディネーター

山口県教育庁指導課 主査 和田征文



シンポジスト①

山口市立白石小学校長 見好豊

- 4 「夢と知恵を育む」学校教育の推進考—主体者として
- 3 脚注・解説 吉田松陰撰集
- 〇 細井平洲「小語」
- 〇 滝鶴台についてのメモ
- 〇 藩校及び五中学系統一覽
- 〇 山口県小中学校授業年限の変遷

- 〇 吉田松陰・松下村塾記
- 〇 藩閥の将来附教育の大計
- 〇 郡に在りし頃
- 〇 幕末の教育機関
- 〇 長州藩の学校
- 〇 寺子屋の経営者・師匠
- 〇 義務教育就学率の推移
- 〇 山口県小中学校授業年限の変遷

- ※この研究会で用いられた資料
- 1 吉田松陰の生涯 B4十三枚
- 2 山口県教育風土—その形成と伝統—

5 基調講話 11:20〜12:30
吉田松陰と私



元長門市助役・松風会理事
岩本肇

- 4 演習・協議 九〇〇〜一二〇〇
松陰の生き方を現代の学校経営に生かす方途を探る

の子供にどんな力をつけるか

○平成八年度山口県学校教育の基本方針

○「夢と知恵を育む」学校教育の推進のために

○防長教育のよさを取り入れた山口県らしい教育とは、
どういふ教育か

○「夢と知恵を育む」学校教育の推進

5 ○「夢と知恵を育む」教育推進に当たって

○その前提条件として
○松陰の真骨頭を生かす教育
○実践の事例

・松陰の言葉に学ぶ
・松陰の母に学ぶ
・平成「こやらい」考

6 ○日本の近代化
(国際理解・自然観)

○松陰先生に学ぶ
7 ○防長教育の特異性

○防長教育に根ざした学校経営

○地域社会との連携について
○新指導要領の真髓を含有した先進的教育

○至誠と狂の具現への生き様
○父杉百合之助から松陰への言葉

8 ○教育実践の表紙裏の松陰語

録・明倫小学校の朗誦文
9 ○生徒への激励文等々
10 ○松陰と私



財団法人松風会 理事長 松永祥甫

「若き日の伊藤博文」を

読んで

この郷土読本「若き日の伊藤博文」の贈呈を受けたのは確か

昨年秋頃だったかと思いますが、その頃思いもかけぬ煩鎖な事件、事象が次々と続出して一

読致し得ましたのは今年に入ってからであります。その際、記述内容に未来指向の点が何れ、興味津々たるものがあって、再

読のため靴の中に入れておりました。某日県庁前の停留所で十五分許りの待ち時間にこの本を

読んでいて、フト眼を転じて見ますと既に可成遠方にバスは過ぎ去っていました。初めての経験であります。

さてこの本の著者は当松風会事業の一つの第二回松陰研修塾の塾生中本正雄氏(四〇)、現在山口県熊毛郡大和町岩田小学校教諭で教務主任の要職に在り乍ら常に自らも研究研修に余念のない少壮有為な教育者であります。恐らく寸暇を割いて、否

郷土の偉人先覚者こそ、青少年の夢一志を育てる活模範と位置付けての恪勤精励の結晶ではありますまいか。

伊藤博文(一八四一〜一九〇九)は、幕末には志士、明治時代においては最高の政治家、元勳の座にあったわが国第一級の人物であります。その生家は熊毛郡東荷村(現在大和町東荷)にあって郷土の偉人、大先覚者であります。ここに着目され、道徳教育、社会科郷土資料として編集することを意図して、若き日の伊藤博文を取材研究され、而もその偉大な人物の育った土壌を重視され吉田松陰先生並びにその門下生との関連について詳しく、誠に平易に論述されている、その炯眼に対し、深く敬意を表します。

常々私は一つの人生観として、縦社会、横社会の接点で現在の自分であり、従って自分の現在は過去の恩恵とその時々の横社会の大きな支援、協力によって今日があり、そうした因果関係で未来も展開されるという把握方を持っています。このような歴史観に立つとき、本郷土読本は又一段と強い輝きを發揮されているように感じます。

はじめに
教師の一人として、やはり、目の前の子供たちのよりよき成長を精一杯支援していきたいという思いがある。短期間の松下村塾の教育において、明治維新の原動力となる人物を多数輩出した松陰。松陰の人物像、教育、言動から学ぶことにより、少しでも教育活動の指針を得たいと考えている。

教育者松陰に学ぶ

「三端」を糸口に教育を見直す



第二回松陰研修塾生 教諭 桂 聖

一 志を立てる「志を立てて以て万事の源と為す」

「夢は何か」と問うと、「わか
らない」「まだ決めていない」という子供たちのつぶやきが聞こえてくる。まだ幼いからという見方もできるが、未来に潑刺とした希望を持たない子供たち

に一抹の不安を感じる。
松陰が生きた幕末は正に激動の時代であったが、現在は物質

的な豊かさが先行した飽食の時代とも考えることができる。
「志」「気概」等といった頑健さの存在は薄れつつある。しかし、来る二十一世紀は、別の意味で、先行き不透明な、激動の時代であろうことは多くが認めるところである。つまり、これからの教育においては、より一層「社会の変化に主体的に対応し、創造的に問題を解決していく資質や能力」が求められてくるのである。

その資質や能力の根幹(源)となるものは何か。それは、「志」であり、「夢」であり、

「書」を読み以て聖賢の訓へを
「書」を求めて、以下、私見を述べてみたい。

「志」を立てる「志を立てて以て万事の源と為す」

「交を以て仁義の行を輔く」

「書」を読み以て聖賢の訓へを
「書」を求めて、以下、私見を述べてみたい。

「志」を立てる「志を立てて以て万事の源と為す」

「交を以て仁義の行を輔く」

「書」を読み以て聖賢の訓へを
「書」を求めて、以下、私見を述べてみたい。

「志」を立てる「志を立てて以て万事の源と為す」

「目標」である。確固たる「志」があればこそ、どんな苦難の状況におかれても、意志を貫き通し、自己実現を図ることができるのである。

自らの「可能性」を信じないところに「夢」は存在しない。子供の「無限の可能性」を信じ、それをしっかりと自覚させていくことが、ひいては自らの目標を意識したり、確固たる「志」を立てたりさせることにつながっていくのではないか。

二人から学ぶ「交を扱びては以て仁義の行を輔く」

「交を扱びて」というくだりは、「士規七則」の「師恩友益多きに居る。故に君子は交遊を慎む」「師の恩や友の益に負うところが大きい。だから、才徳ある人は、交際を慎重にする」というくだりに照応している。

「交遊を慎む」とは、松陰の平等観からしても決して人とあまり付き合わないということではなく、交際を大切にするという意味であると考ええる。さらには、「人から謙虚に学ぶ大切さ」を述べていると解釈したい。

学ぶという行為は、書物から知識を得ることが主である。しかし、どんな名著を読んでも、

実際に人から学ぶことにはかなわない。また、書物を読むことは、実は、筆者という人を読むことである。松陰は、進んで諸国を歩き、師を求めた。つまり、学ぶことの基本は、「人から学ぶこと」であると考ええる。

しかし、日常の教育活動において、その基本が真に行われていくであろうか。教師から学び、友から学び、両親から学び、謙虚な姿勢で、相手の「よさ」が発見できてこそ、人から学ぶことができるのである。教師という立場で、一人ひとりの子供のよさを発揮させているだろうか。人から学ぶ姿勢が本身に身に付いていれば、「いじめ」など起らないのではないか。

三 本から学ぶ「書を読み以て聖賢の訓へを稽ふ」
書物を読むということは、間接的に人から学ぶということである。そして、書物によって出会うことができる人の数は、実際に会うことができる人の数の比ではない。すなわち、多くのことを日常的に学ぼうと思えば、実際の人との出会いの限界性を考えると、多くの書物を読んで、学ぶ機会を広く求めているのではないのである。

松陰は、進んで多読をしながら、読書の重要性も説いてきた。しかも、松陰の読書法の注目すべきは、読書量が多いだけでなく、大事な言葉を書き写したり、それに自分の考えを書き加えたりしているところである。現代風にいえば、広く情報を収集し、価値ある情報を選択し、再構成して、発信（表現・行動）していくという「情報活用能力」を駆使していたといえるのではないか。

学習の中でも「読書は大切」という認識は一般化しているといえるが、子供たちに松陰の実践や言葉の例にもっと読書の意義を訴え、その機会を確保し、「本から学ぶ喜び」をしっかりと味わわせていくことが大切ではないかと考えている。

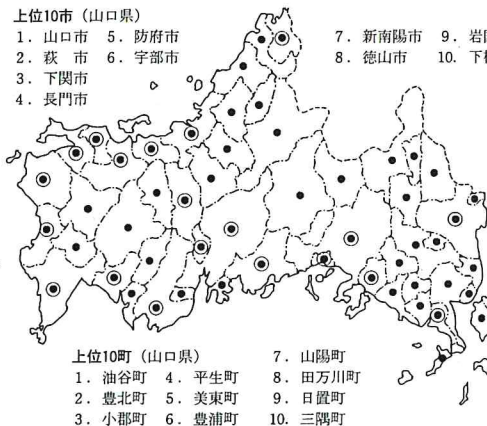
おわりに
士規七則における「三端」を糸口に、現代の教育課題にも若干触れながら、教育を見直してみたい。

先日、中央教育審議会が「審議のまとめ」を公表した。その中では、今後における教育の在り方の基本的な方向を探る視点の一つとして、教育の「不易と流行」を挙げている。しかし、

脚注解説 吉田松陰撰集はどこへ

山口県…全市町村へ…平成9年2月末

- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1. 山口市 | 5. 防府市 | 7. 新南陽市 | 9. 岩国市 |
| 2. 萩市 | 6. 宇部市 | 8. 徳山市 | 10. 下松市 |
| 3. 下関市 | | | |
| 4. 長門市 | | | |



- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1. 油谷町 | 4. 平生町 | 7. 山陽町 |
| 2. 豊北町 | 5. 美東町 | 8. 田方川町 |
| 3. 小郡町 | 6. 豊浦町 | 9. 日置町 |
| | | 10. 三隅町 |

脚注解説・吉田松陰撰集の刊行に当たり極めて多くの機関・団体・個人の方々から格別の御協力をいただき感謝に堪えません。講読者の方々からは、身にあるおほめの言葉もいただきました。謹んで御厚謝申し上げます。

申込み・発送の事務のほとんどを松風会で取扱いました。予想もできない大変な事務でした。

「私が頒布の協力をしましょう。」「私がまとめてあげましょう。」

教育課題とされる、「不易」の面においても、さらにいうと「流行」の面においても、実は、今まで先人が築き上げてきた教育遺産の中にその解決の糸口が存在するのではないかと考える。山口県教育委員会がうちだした「夢と知恵を育む」教育に関しても同じである。

全国…45都道府県へ…平成9年2月末

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1. 東京都 | 4. 広島県 | 7. 神奈川県 |
| 2. 兵庫県 | 5. 福岡県 | 8. 千葉県 |
| 3. 熊本県 | 6. 大阪府 | 9. 愛媛県 |
| | | 10. 埼玉県 |



▽等自発的な御協力事例は枚挙にいとまなしです。あらためて厚く御礼を申し上げます。地下の松陰先生も喜んで下さるかと思います。(編集部)